

湯の川エコ(環境)ミュージアム計画 ■馬車道通りの交流ステーション

●計画方針

湯の川の温泉地としての歴史は古くこの地に来訪した著名な文化人も多い。時代は変遷しても函館山エリアの人気は高いものの、湯の川の地をめざして来訪する人々の期待に十分応えられているだろうか・・・。

温泉地の盛衰は、旅に求める旅行者のニーズの変化に関係し、持続的に魅力を維持するには、北海道の温泉地にふさわしい個性と魅力、従前の物見遊山の観光からの脱皮した新しい観光、旅行者を感動させるサービス、滞在してもらうには保養地として基盤整備と環境づくりが欠かせない。

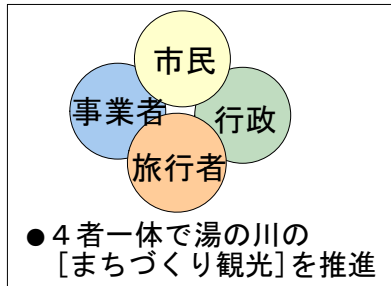
湯の川の街の再生と活性化には、宿泊業や建築単体の更新だけでは難しく「湯の川地域」そのものを主体とした計画的で持続的な再生プログラムに基づく事業計画が必要である。そのためには、観光事業者だけでなく様々な事業者、行政、そして「新しい公共」の主役となる市民など、広範に協力を得て行う「観光」と「まちづくり」を両立させた「まちづくり観光」を始動させる事、その活動の場となる新たな拠点づくりが必要である。

●湯の川エコ(環境)ミュージアム計画概要

歴史的に蓄積された湯の川地域の歴史、文化、自然、産業、人材等の掘り起こしと未活用の地域の歴史と地域特性を再発見し、地域全体を活きたエコ(環境)ミュージアムとして捉えなおし、まちづくりの観点から新たな「観光・保養地域」と「魅力的なまちづくり」を両立させる「新しい湯の川」を構想する。「湯の川エコ(環境)ミュージアム」計画は、来訪する旅行者に湯の川の良さを体感、体験してもらい「湯の川」への共感者を増やすとともに市民にとっても地域の魅力を掘り起こしながら、自分たち地域を再発見し、まちづくり活動に積極的にかかわれる良い機会をもたらす。

「湯の川」を函館の奥座敷の別称から、存在感のある自立的な新たな「北の保養地」として、市民の自発的活動を生かしながら魅力あるまちづくりを進めてゆく。

「湯の川エコ(環境)ミュージアム計画」は、市民、事業者、行政、旅行者が一体となってこれまでの歴史・文化遺産、自然遺産を受け継ぎ、未来に向けた創造的なまちづくりを持続的に行うことが可能な未来へとつなぐ計画プログラムである。蓄積された地域遺産を広く学びながら湯の川の潜在的魅力を最大限生かした新たなまちづくりが可能となる。



●「湯の川」エコ(環境)ミュージアム基本計画

◇湯の川全域を活きたエコ(環境)ミュージアムとして計画

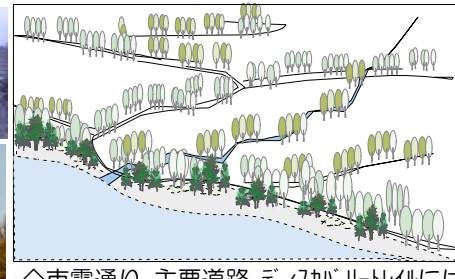
- ・地域の歴史、文化、産業、自然、人材等を再評価し、地域特性を生かした「エコ(環境)ミュージアム」としてのまちづくりを計画する。
- ・地域、地区間の主要部に中継拠点としての各種サテライトを配置する。(例：市電駅、足湯、名所・史跡、観光案内所、コミュニティセンター、集会所他)
- ・サテライト間や拠点を結ぶトレイル(発見の小道)をネットワーク化させる。(例：市電通り、温泉通り、河川沿い遊歩道、名所・史跡探索ルート他)
- ・地域の魅力や特質を体感できる多様な回遊型ツアーを企画、開催する。

◆「湯の川」の新しいランドスケープの形成

- ・北の観光・保養地のツボルとなる高木樹林帯による新たなランドスケープを形成
- ・市電通り：高木樹林帯、緑地帯によるシンボルロードとしての景観形成
- ・市電通り：無電柱化(電線埋設)と市電駅改修によるランドマーク形成と沿線のまちなみ、景観の再生
- ・海岸部：カマツ、地被植物等による海浜エリアの美しい白砂青松景観の再生
- ・河川・河岸部：河岸林・河岸緑地による河川エリアの自然性の回復、再生
- ・主要道路：街路樹、緑地帯による緑地帯の形成と樹林帯の形成
- ・市街地・住宅地：街路樹林帯で自然性豊かなランドスケープを形成



◇海辺の散策が楽しめる海浜エリア
◇美しい白砂青松景観の再生



◇市電通り、主要道路、ディスカバリートレイルには保養地としての景観形成のため樹木・植栽による緑の回廊を計画

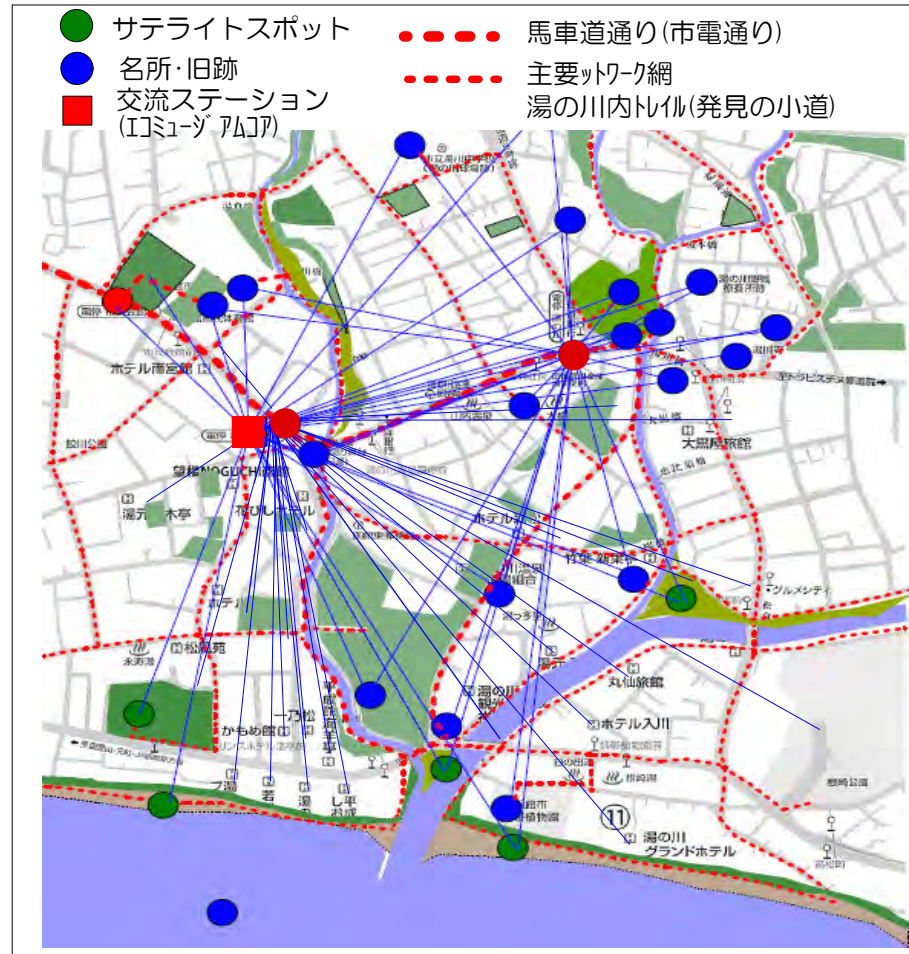
◆エコ(環境)ミュージアムとは

エコミュージアム(Ecomuseum)は、エコロジー(生態学)とミュージアム(博物館)をつなぎ合わせた合成語で、住民の参加によってその地域で受け継がれてきた自然や文化、生活様式を含めた環境を、総体として永続的な(持続可能な)方法で研究・保存・展示・活用していくという考え方とその実践である。エコミュージアムは、展示資料の現地保存、住民が参加しての運営などにより、地域を見直し、その発展を目指すことに特徴がある。

◆コア・サテライト・ディスカバリートレイル

エコミュージアムの構成要素は、地域の紹介所の機能を果たす拠点施設「コア」現地で保存された展示対象たる「サテライト」、「コア」とサテライトあるいはサテライト相互をつなぎ、地域の魅力再発見へと導く「ディスカバリートレイル」(発見の小径)などからなる。地域間をつなぎ構成することで、全体が新しい観光やまちづくりの地域資源となる。

これまでの神社仏閣・名勝・景勝地などの既存の有名観光資源を広範に移動しつつ駆け足で巡る観光ではなく、広い意味での「新しい旅」のフィールドであり感動的な「新しい旅」を可能にする。



◆市電駅を基点にしたまち歩き型観光と地域活動ネットワークの形成

- ・市電・駅を積極活用した新しい観光、コミュニティ、まちづくり計画を行なう
- ・交流ステーション(ミュージアムコア)を基点とした湯の川エリアの企画・開催
- ・市電の利便性を図り、沿線地域への集客と活性化をはかる
- ・市電駅と周辺の空きビル等にミュージアムとの関連機能をもたせ、沿線のへの集客、活性化を図る
- ・市電通りのランドマークとして市電駅上屋を新たにデザイン(夜景効果も)
- ・環境にやさしい交通手段の市電を積極活用し、今後はレトロ市電の並行運転やLRT運行へのシフトを計画
- ・休む時、一定時に「馬鉄」(馬車鉄道)を「湯の川温泉」-「湯の川」駅間で復元運行(ミュージアムコアからも出発)



◇エコミュージアムコアと関連付けたミュージアムショップをネットワーク



◇馬鉄の復活運行

■敷地・建物概要

- 計画地を湯の川のエコ(環境)ミュージアムの活動拠点(ミュージアムコア)とする
- 利用・運営：旅行者、市民、事業者、行政が一体的に利用・運営
市民、事業者、行政、他の業種、職種を超えた人々が参画し、企画から運営まで各代表が事業計画を立て計アックに基づき活動

◇施設の主要機能

- ・湯の川観光のインフォメーション、エコミュージアムコア(ミュージアム中心拠点)
- ・エコツアーの企画、開発、出発・帰着点
- ・エコミュージアムショップ(地域商品、ミュージアムグッズの開発、販売)
- ・エコツーリズムの学習・ツアーガイド等の人材育成
- ・地域発見・掘り起こしの調査・研究活動、地域の人材育成
- ・イベント、集合広場、馬鉄展示、場車鉄道引き込み線
- ・湯の川「市民市場」(湯の川横丁)の開設(朝市・夕市・夜市、オープンダイニング)
- ・ご当地レストラン、ご当地グルメ横丁・グルメ屋台
- ・地域交流拠点、コミュニティ育成活動 他

●建物概要

- ・2階建て ・RC造一部S造 外壁：タイル貼り 一部煉瓦張り(外断熱)
- ・延床面積 1階：429.49㎡ 2階：391.45㎡ 3階：296.46㎡ 計 1117.40㎡
- ・建築面積 438.51㎡(建築ペイ率：63.86%<80.00%) (容積率162.73%<400%)

◆湯の川の様々な資源と活動をネットワーク

- ・サテライト(主要な探訪・市民活動拠点)をネットワークする
- ・市電駅を基点に地域計画を行ない地域間相互をネットワークする
- ・市電駅と駅周辺に市民サービス向上のための機能を配置する
- ・市電駅と地域、地域間をつなぐトレイル(発見の小道)をネットワークする
- ・地域の歴史・文化遺産を掘り起こしネットワークする
- ・地域の自然遺産を保護・再生・育成しネットワークする
- ・地域の観光・産業遺産を発掘しネットワークする
- ・地域の多様なワザと技術を持つ人材をネットワークする
- ・地域固有の産物、ご当地グルメを開発しネットワークする
- ・地域の人々の諸活動や情報の受発信をサポートする
- ・計画地を湯の川の活動拠点(コア)とし、湯の川全体を活きたエコ(環境)ミュージアムとして活性化させる



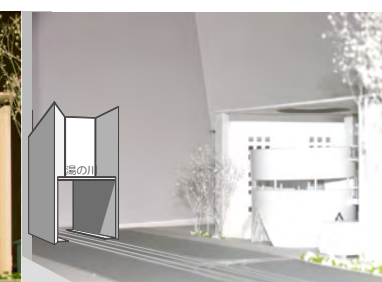
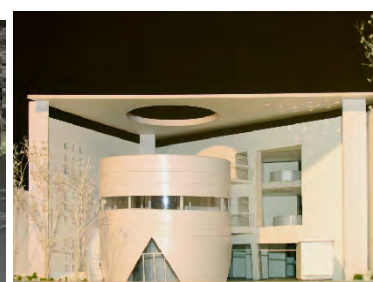
◇街に開いた交流広場(大屋根付)+馬鉄引込線
◇市電通りを樹林帯で魅力的な景観形成



◇街に開いた戶外広場+物産館+馬鉄引込線
◇広場とつながる買物横丁・星空広場

◆地域資源と参加者の活動が生み出すエコミュージアム活動

- ・市電駅周辺の空きビルを積極利用したミュージアムショップの開設
- ・市電通りを主なディスカバリートレイルとし、沿線をミュージアムショップで活性化
- ・いくつものテーマ性のあるトレイル(発見の小道)を計画しエコミュージアム巡り
- ・市電通りに「各旅館が腕を競うご当地グルメ」や「地場の野菜や海産物市場」、市民や地場産業の製作によるご当地グッズ販売ショップ等を集中配置し、毎日が縁日状態に
- ・市民の日常生活と買物の楽しみを味わえる「市民市場」の開設
- ・地域の歴史や文化、ご当地グルメ地場名産品、ご当地シェフやご当地職人等の達人の発掘と参加による未開発資源による新観光メニュー
- ・美しい海岸線と海風が心地良い砂浜や海浜の散策路等、自然資源の連続的ネットワーク



湯の川・エコミュージアム計画

【馬車道通りの交流ステーション】

